

短期目標達成状況の評価と今後の取組について



斐伊川水系 水鳥プロジェクト

斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

短期目標とワーキングの関連

全体構想に示す8つの短期目標について、対応する専門ワーキングにおいて評価結果を示し、意見を伺った。

【短期目標(～2025年)】	
生息環境づくり	地域づくり ～わが国においても希有な自然環境の価値を、地域の人々に知ってもらう～
1. ハクチョウ類、ガン類の越冬個体数について、少なくとも現状(2015年度時点)を維持できるだけの環境(ねぐら、採食地、休息地)を確保する。	5. 斐伊川水系生態系ネットワークの取り組みについて、愛称やロゴマークなどとともに、圏域内外に向けた広報を進める。
2. 散発的に飛来しているナベヅル、マナヅルの越冬に必要な環境条件に関する調査・分析を行い、生息環境づくりに向けた取り組みを始める。	6. 中海・宍道湖圏域、および、出雲・雲南圏域において、学校・団体等を対象に、大型水鳥類を軸とした自然環境学習を推進する体制をつくる。
3. 国管理河川を中心に先行的に取り組まれている、生息環境づくりに資する取り組みの効果を検証し、他地域への適用に向けた取り組みを始める。	7. 大型水鳥類をシンボルとする自然景観を観光資源としたツアーを商品化し、年に1回以上は実施する。
4. 雲南市におけるコウノトリのペアの生息・営巣条件について調査・分析を行い、課題とされる点については生息環境づくり、地域づくり両面からの改善に向けた取り組みを始める。	8. 各主体の地域づくりや生息環境づくりに向けた取り組みをマンパワーや財政、広報などで支える体制を、流域内外の事業者などを中心に形成する。
	4. 雲南市におけるコウノトリのペアの生息・営巣条件について調査・分析を行い、課題とされる点については生息環境づくり、地域づくり両面からの改善に向けた取り組みを始める。(再掲)

短期目標と各ワーキングとの関連

◎：該当するWGにおいて、意見交換の議題とするのが望ましい目標
○：該当するWGにおいて状況報告を行い、必要に応じ意見を伺うと良い目標

ワーキング		水辺・鳥類	農地環境	地域振興	環境学習
短期目標					
生息環境づくり	短期目標1	◎	○		
	短期目標2	◎	○		
	短期目標3	◎			
生息環境づくり 地域づくり	短期目標4	◎	○		
地域づくり	短期目標5			◎	
	短期目標6				◎
	短期目標7			◎	
	短期目標8	○	◎		

短期目標1のタスク実施状況

短期目標1：
ハクチョウ類、ガン類の越冬個体数について、少なくとも現状(2015年度時点)を維持できるだけの環境(ねぐら、採食地、休息地)を確保する。

タスクの実施状況	実施主体	～2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
タスク1.斐伊川流域における主要なねぐら環境の質と規模の維持（2015年度時点と同等）								
航空写真等からの規模の比較、ハクチョウ類等の利用状況の把握	事務局						→	
（環境調査により達成困難な見通しとなった場合）新たなねぐら整備に向けた検討	事務局						概ね現状維持と評価	
タスク2.斐伊川流域における主要な採食環境（特に秋耕回避水田）の維持（2015年度時点と同等）								
環境調査の実施、ハクチョウ類等の利用状況の把握	事務局	→				→		
（環境調査により達成困難な見通しとなった場合）採食環境の改善に向けた検討	事務局				減少傾向を確認			→
環境保全型農業を実践する農業団体に関する情報収集	事務局						→	

タスクに関連する主な指標値とその変動傾向

（基準年：2016年冬、評価年：2023年冬）

関連項目	指標値	基準年	→	評価年	評価
採食環境の維持	秋耕回避水田の面積割合(%)	70.2%	→	51.1%	後退

短期目標1 達成状況評価(案)：評価中(協議会の後、関係するWGにて確認いただく)

〔現 状〕 **タスク1：**

- ガン類、ハクチョウ類の主要なねぐらである湖沼・河川環境等（斐伊川河口～西代橋上流、松江市潟の内（池沼・冬期湛水水田）、能義平野（安来市宇賀荘冬期湛水水田）、赤川（雲南市春殖地区）、米子水鳥公園）の水面規模等について比較したところ、大きな変化は見られなかった。※
- ただし、一部地域では底質の流亡により水深が深くなっている（米子水鳥公園）、植生のついた寄州や中州が増加傾向（斐伊川河口～灘橋付近）等、ねぐらとしての質が低下傾向にある場所も見られる。

タスク2：

- ガン類・ハクチョウ類の主要な採食地である水田地帯（出雲平野、湖北平野、能義平野）を対象に、二番穂が残された水田や刈り株の残った水田（＝秋耕されていない水田）について2016年度と2023年度を比較したところ、減少という結果が得られた。※
- ガン類・ハクチョウ類が越冬に必要な落ち粕量から、秋耕回避の水田面積のオーダーを推定すると、余裕があるとは言い難い状況であることが示唆された。
- 農業政策、環境保全（温室効果ガス対策）政策は、総じて採食地の減少につながる取組を推奨・支援しており、課題が大きい。
- 一部では秋耕を春まで遅らせる等の取組がされているが、農業者に対する理解の輪も広がっているとは言い難い状況。

〔対応方針〕

- ねぐらとなる湖沼・河川の環境維持または改善に向けた関係機関（国、県）との協議
- 採食地となる水田の保全・農地環境改善に取組む農業者増に向けた、関係機関（県、農林水産省等）との協議

※ 水辺環境・鳥類WG（西部2025.3.18（水）開催、東部2025.3.13（木）開催）資料2にて提示

短期目標2のタスク実施状況

短期目標2：
散発的に飛来しているナベヅル、マナヅルの越冬に必要な環境条件に関する調査・分析を行い、生息環境づくりに向けた取り組みを始める。

タスクの実施状況	実施主体	～2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
タスク1. 他地域の情報も参考に、ねぐらの環境条件を整理（飛来した場合はねぐら利用状況を調査）								
他地域のツル類のねぐら環境に関する情報収集	事務局						→	
斐伊川水系におけるツル類のねぐら利用状況調査	事務局	→						
斐伊川水系におけるツル類のねぐら環境条件の整理	事務局						→	
タスク2. 採食環境の把握（飛来した場合は採食利用状況の把握）								
斐伊川水系におけるツル類の採食状況調査	事務局	→						
タスク3.（追加的取組が必要と考えられた場合）ねぐら環境、採食環境の保全・再生に向けた検討								
保全・再生に向けた検討	事務局							→

短期目標2 達成状況評価(案)：評価中(協議会の後、関係するWGにて確認いただく)

- [現 状]

タスク1：

・ 流域におけるねぐら環境の調査は2016年等に実施。他地域の事例も参考に環境条件の整理を行った。※

・ 2016年に15羽のナベヅルが飛来・越冬した時にねぐらとして利用されていた斐伊川河口付近（本川河口部～島村橋付近）は、ツル類のねぐらとして機能し得る条件を備えていると言える。ただし、一部、中州や寄州に植生が目立ち始めており、ねぐら利用に影響が生じないか注意が必要。

タスク2：

・ 採食環境の調査はねぐらと同様、2016年等に実施。2016年に15羽のナベヅルが飛来・越冬した年は、日中は斐伊川下流周辺の農地で採食行動が確認できた。※

－ 日周行動は把握できたが、実際に何を食物資源としていたのかについては情報が不足

－ ツル類は集団で飛来した時と単独で飛来した時とでは日周行動が異なると言われている。数十羽単位で越冬可能な生息環境づくりをすすめる上では、好適な採食環境の条件整理に向けて追加的な調査が必要

タスク3：

・ ねぐら環境については質の確保、採食環境については追加的な調査の上で条件整理が必要。

[対応方針]

・ ねぐらとなる湖沼・河川の環境維持に向けた関係機関（国等）との協議

・ 食物資源調査の実施（調査手法の検討含む）、好適な採食環境の条件抽出等
- ※ 水辺環境・鳥類WG（西部2025.3.18（水）開催、東部2025.3.13（木）開催）資料3にて提示。なお、2017年度以降はまとまった数の飛来・越冬の情報がなく、域内での調査は単独で飛来した個体を対象とした日周調査、環境調査に限定される（2025年等）。
- 3

短期目標3のタスク実施状況

短期目標3:

国管理河川を中心に先行的に取り組まれている、生息環境づくりに資する取り組みの効果を検証し、他地域への適用に向けた取り組みを始める。

タスクの実施状況	実施主体	～2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
タスク1. 国管理河川における生息環境づくりの取り組みの効果の検証								
斐伊川河口部左岸出島地先、神戸川境橋上流の取組に関する情報収集	事務局	→						→
取組の効果の検証	事務局	→					→	
タスク2. 先行実施の環境づくりの効果を踏まえた、他地域への適用検討								
生息環境づくりを進めることが可能な場所の抽出	事務局	→						→
結果を踏まえた、他地域への適用に向けた検討・実施	事務局						→	→

短期目標3 達成状況評価(案)： 評価中(協議会の後、関係するWGにて確認いただく)

【現 状】 タスク1：

- ・ 出島地先における浅場づくりのために投入した土砂の堆積状況、砂嘴切除による浅場の広がり具合、および、神戸川境橋上流における大型水鳥の食物資源となる植物の植栽後の活着状況の確認等を実施（～2017）。
- ・ その中でも河口部左岸出島地先については、2017年以降も、出雲河川事務所の事業として前述の事業、およびモニタリングが複数回行われており、ヒシクイやコハクチョウがねぐらとして利用する等、効果については一定の情報が蓄積されている。※
- ・ 目標とする環境が維持されているかについては、2026年度以降検証を進める。

タスク2：

- ・ 出島地先の生息環境づくりの結果を元に、天敵の接近等周囲からのかく乱を受けにくい、砂州状の陸域や広く水深の浅い水辺環境の確保について、ワーキング等において候補地の抽出・絞り込みを継続している。
- ・ 一部の地域では、土砂投入等の事業が進められている（米子水鳥公園等）。
- ・ 県管理河川においては、環境づくりを主目的とした事業を行うことは困難であるとの情報を得ている。
- ・ 治水目的の事業（河道しゅんせつ等）については、県管理河川においても状況により大型水鳥の生息に配慮した河川管理を行うことは可能であるとの情報を得ている。

【対応方針】

- ・ 神戸川境橋上流のモニタリング等、引き続き取組の効果の検証を進める。
- ・ 河川（国、県管理河川）の治水目的の事業においても、望ましい環境保全・工事上の配慮について管理者と情報共有を図ることができるよう、意見交換の場を設ける。

※ 第5回生息環境づくり部会（2019.1.29開催）資料1より

短期目標4のタスク実施状況と目標達成状況評価案

短期目標4：
雲南市におけるコウノトリのペアの生息・営巣条件について調査・分析を行い、課題とされる点については生息環境づくり、地域づくり両面からの改善に向けた取り組みを始める。

タスクの実施状況	実施主体	～2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
タスク1. 生息・営巣条件の整理								
採食環境調査の実施	出雲雲南地域推進協議会							→
採食環境調査のとりまとめ	出雲雲南地域推進協議会							→
タスク2. 市域における採食環境の改善に向けた取組								
雲南市の水田における環境づくりの支援等	出雲雲南地域推進協議会、雲南市ほか							→

タスクに関連する主な指標値とその変動傾向 (基準年はいずれも2020年)	関連項目	指標値	基準年	→	評価年	評価
	生息環境全体に関する指標	雲南市で営巣したペア数	1	→	3 (2025年)	前進
		雲南市における巣立ち成功ペア数	1	→	3 (2025年)	前進
		雲南市における巣塔設置数 (台)	1	→	4 (2025年)	前進
	生息環境のうち特に採食地に関する指標	水稻作付面積 (ha)	1,530	→	1,350 (2025年)	後退
		水稻-有機栽培の圃場面積 (ha)	2.39	→	2.2 (2024年)	後退
		田んぼピオトーブ (田面湛水タイプに限定) の件数	2	→	3 (2025年)	前進

短期目標4 達成状況評価(案)： 評価中(協議会の後、関係するWGにて確認いただく)

- 【評価理由】

タスク1：一部達成

- 出雲市・雲南市を対象とした食物資源量調査は2020年度よりおこなわれており、コウノトリ等の食物資源となる水生動物の安定した生息上重要な環境要素について一定の結果が出ている。ただし、地域全体における採食環境の過不足、追加的な取組の要不要等について、検討が必要。
- タスク2：達成

- ペア数、および巣立ちひなの数は増加傾向にある。2026年はさらに1ペア増。元々雲南市の自然環境が優れていること、市内においてコウノトリを受け入れる地域づくりが前進していることが伺える。
- 【対応方針】

- 調査・分析結果を踏まえた、地域全体の水田や河川における生息環境づくりの拡大。特に、農業者の高齢化・後継者不足等を背景とした水田面積の減少や、農法や水管理の近代化等による水田の採食地としての質の低下の抑制、再生に向けた取組や河川における採食環境づくりの検討。

短期目標5のタスク実施状況と目標達成状況評価案

短期目標5： 斐伊川水系生態系ネットワークの取組について、愛称やロゴマークなどとともに、圏域内外に向けた広報を進める。

タスクの実施状況	実施主体	～2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
タスク1. ウェブサイトの作成・運用								
ウェブサイトを開設した	事務局			→				→
タスク2. 愛称・シンボルマークの作成および、その活用を促すウェブサイトの開設・マニュアルの作成								
愛称・シンボルマークを作成した	事務局				→			
ウェブサイトに愛称等を紹介するページを作成した	事務局			→	→			
愛称等の使用マニュアルを作成した	事務局				→			
タスク3. 関係主体による愛称・シンボルマークの活用								
愛称等をツアーチラシに掲載した	出雲観光協会、東出雲観光、出雲国ジオガイドの会				→			→
愛称等をイベントポスター、チラシ、チケットに掲載した	やすぎシグナスフェスティバル実行委員会							→
愛称等を関連商品パッケージに掲載した	しふおんながた、発酵菓子カヌカ、つちのと舎							→
愛称等を資料に掲載した	松江市、島根県、矢田醤油店				→			→
愛称等を団体紹介ウェブサイトに掲載した	コウノトリの会春殖、野尻の郷					→		→
愛称等をビオトープ設置看板に掲載した	ビオトープ整備主体				→			→
タスク4. SNSの運用								
出雲河川事務所Xで水鳥プロジェクト関連の情報を発信した	事務局				→			→
Facebookに水鳥プロジェクト関連情報を掲載した	島根県、鳥取県				→			→
斐伊川エコネットFacebookを開設した	日本生態系協会							→
斐伊川エコネットLINEアカウント・Instagramを開設した	日本生態系協会					→		→
斐伊川エコネットXを開設した	日本生態系協会							→
タスク5. 広報ツールの作成・活用								
シンボルマーク缶バッジを作成し、活用した	事務局				→			→
オリジナル水鳥缶バッジを作成し、活用した	事務局					→		→
生きもののカードを作成し、活用した	事務局、日本生態系協会					→		→
パネルを作成し、展示に活用した	事務局							→
パネルの複製を制作し、展示に活用した	出雲観光協会、3社トキ放鳥支援プロジェクト			→	→			→
ミニリーフレット・ポップを作成し、配布・設置した	事務局							→
展示用ツールを作成し、活用した	事務局、日本生態系協会					→		→

タスクの実施状況	実施主体	～2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
タスク6. その他の広報活動								
イベントに水鳥プロジェクトブースを出展した	事務局	→						→
主催イベントに水鳥プロジェクトのPRブースを誘致した	やすぎシグナスフェスティバル実行委員会							→
水鳥観察会・生きもの観察会を開催した	中海・穴道湖・大山圏域市長会、島根県、石原里田、出雲雲南地域推進協議会							→
パネル巡回展を開催した、または展示イベントに貸し出した	事務局、島根県、島根県・出雲雲南地域推進協議会	→						→
事業者等に水鳥プロジェクトに関する情報提供を行った	事務局							→
大学生を対象とした水鳥プロジェクト関連の講座を開講した	島根大学						→	→
新聞等メディアに取組の取材を呼び掛けた	事務局、日本生態系協会							→
ウェブサイトに水鳥プロジェクトウェブサイトへのリンクを貼った	島根県環境政策課穴道湖・中海対策推進室			→				→
タスク7. 生態系ネットワークの取組に対する認知度の把握								
水鳥プロジェクトの認知度に関するアンケート調査を実施した	事務局		→					→

タスクに関連する 主な指標値と その変動傾向 基準年：2020年 評価年：2025年 ※水鳥プロジェクト事務局 による取組のみ記載	タスク	指標値	基準年	→	評価年	評価
	1. ウェブサイトの作成・運用	ウェブサイトのページ数	0	→	10	前進
	3. 関係主体による 愛称・シンボルマークの活用	資料・チラシ等への愛称・シンボルマークの掲載件数	0	→	5	前進
		資料・チラシ等への愛称・シンボルマーク使用申請数（累積）	0	→	5	前進
	4. SNSの運用	水鳥プロジェクト関連情報を発信したSNSアカウント数（累積）	0	→	12	前進
	5. 広報ツールの作成・活用	作成したツールの種類数（累積）	3	→	9	前進
		広報ツール活用回数	1	→	5	前進
	6. その他の広報活動	イベント出展回数	1	→	3	前進
		関係主体主催のイベント等への水鳥プロジェクト講師派遣回数	0	→	2	前進
		水鳥プロジェクト関連情報のメディア掲載回数	2	→	5	前進
		外部サイトでの、水鳥プロジェクトウェブサイトへのリンク貼付け数（累積）	0	→	1	前進
	7. 生態系ネットワークの取組に対する 認知度の把握	認知度把握のためのアンケート実施回数（累積）	1	→	9	前進
		水鳥プロジェクトアンケート結果「水鳥プロジェクトの認知度」（%）	12	→	19	停滞

短期目標5 達成状況評価(案)：概ね達成

- 【評価理由】
- ・情報発信のベースとなるウェブサイトを開設、運用している他、その他SNSの活用により情報発信量が増加している
 - ・一般投票により愛称・シンボルマークを定めた後、多方面での活用を促している
 - ・取組の普及啓発につながる様々な広報ツールを作成・活用し、イベント等への出展を通じて周知活動を行っている
- 【対応方針】
- ・水鳥プロジェクトの認知度を向上させるため、広報・周知活動を強化する

短期目標6の達成に向けた取組事項と現時点の評価

短期目標6：中海・穴道湖圏域、および、出雲・雲南圏域において、学校・団体等を対象に、大型水鳥類を軸とした自然環境学習を推進する体制をつくる。

タスクの実施状況	実施主体	2020	2021	2022	2023	2024	2025
タスク1. 環境学習プログラム集の継続的配布、活用の働きかけ							
圏域の小学校や公民館等への配布	事務局						→
学校や教育委員会等への聞き取り、働きかけ	事務局						→
プログラム利用状況の確認	事務局					→	
タスク2. ウェブサイトでの発信（プログラムや施設についての詳細な情報や、流域の自然や水鳥に関する情報）							
プログラム集の紹介、プログラム活用事例の取材・広報	事務局			→			→
流域の自然や水鳥の情報を発信	事務局、出雲雲南推進協議会		→				→
タスク3. 環境学習の実践者へのツール等の提供やサポート（新たな教材やツールの検討・作成他）							
教材や水鳥カード等ツールの検討・作成	事務局、出雲雲南推進協議会						→
環境学習活動の実施・サポート	事務局、出雲雲南推進協議会						→

タスクに関連する主な指標値とその変動傾向 (基準年：2020年 評価年：2025年) ※水鳥プロジェクト事務局による取組のみ記載	関連項目	指標値	基準年	→	評価年	評価
	プログラム集の配布等	環境学習プログラム集の配布先（件数）	73	→	206	前進
		環境学習プログラム集を見てプログラム利用を団体に申請した件数	0	→	0	停滞
	ツール等の提供やサポート	水鳥プロジェクトで作成したツール（水鳥パネル、等身大パネル）の活用件数のうち、外部団体からの依頼件数	2	→	6	前進
		環境学習の担い手との連携による授業・イベント実施回数	0	→	2	前進

短期目標6 達成状況評価(案)：概ね達成

[評価理由]

タスク1：概ね達成

- 圏域6市2町の公立小学校、および一部の公民館等へ、年1回環境学習プログラム集を配布。
- 教育委員会や学校等を通じて、学校における環境学習の展開状況について情報収集を継続。

タスク2：概ね達成

- 環境学習プログラム集や、そのプログラムの活用事例をウェブサイトに掲載・周知を図っている。
- ウェブサイト開設時より、斐伊川流域の自然や、自然を象徴する大型水鳥に関する情報（動画・写真含む）を随時掲載

タスク3：概ね達成

- 地域の自然や大型水鳥について身近に感じてもらうためのツールや、学びを深めるための教材を検討・作成し、一部運用。
- 新たに、地域において環境学習イベントを実施する主体へのサポートも実施。

[対応方針]

環境学習プログラムの提供者を通じた、学習機会の拡大

8

短期目標7のタスク実施状況と目標達成状況評価案

短期目標7： 大型水鳥類をシンボルとする自然景観を観光資源としたツアーを商品化し、年に1回以上は実施する。

タスクの実施状況	実施主体	～2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
タスク1. 自治体や観光事業者と連携自治体や観光事業者と連携したモニターツアーの実施								
モニターツアーを実施した	矢田渡船観光、出雲観光協会、 山陰インバウンド機構、東出雲観光		→		→			
サイクリングモニターツアーを実施した	島根県環境政策課穴道湖・中海対策推進室			→	→			
タスク2. 観光事業者との共催による、人材育成を兼ねたツアー商品の販売								
日帰りツアー商品を企画し、販売した	一畑トラベルサービス、出雲観光協会、 出雲国ジオガイドの会							→
宿泊付きツアーを企画し、販売した	出雲観光協会		→					
タスク3. 民間組織による自立的・持続的なツアー商品の販売								
ハクチョウ講座を企画し、開講した	矢田醤油店・事務局					→	→	→
ハクチョウ見学付宿泊プランを企画し、販売した	さぎの湯温泉さぎの湯荘							→
タスク4. ツアー土産としても活用可能な、大型水鳥類等に関連した商品開発								
トキのせんべいやトートバッグ、ポロシャツを製作し販売した	いずも朱鷺21		→	→	→	→	→	→
米粉パンを製造し販売した	しふおんながた					→	→	→
米粉クッキーを開発し販売した	発酵菓子カヌカ・日本生態系協会						→	→
オリジナルデザインTシャツを製作し販売した	矢田醤油店・日本生態系協会						→	→
オリジナルコーヒーを開発し販売した	つちのと舎・日本生態系協会						→	→

短期目標7 達成状況評価(案)： 達成

- 【評価理由】 ・ 出雲国ジオガイドの会との連携により、斐伊川河口における野鳥観察ツアーの年1回以上の継続開催が見込まれる
- 【対応方針】 ・ 安定的な集客を達成するため、広報戦略やコンテンツの磨き上げに必要な検討を行う

短期目標8のタスク実施状況と目標達成状況評価案

短期目標8： 各主体の地域づくりや生息環境づくりに向けた取り組みをマンパワーや財政、広報などで支える体制を、流域内外の事業者などを中心に形成する。

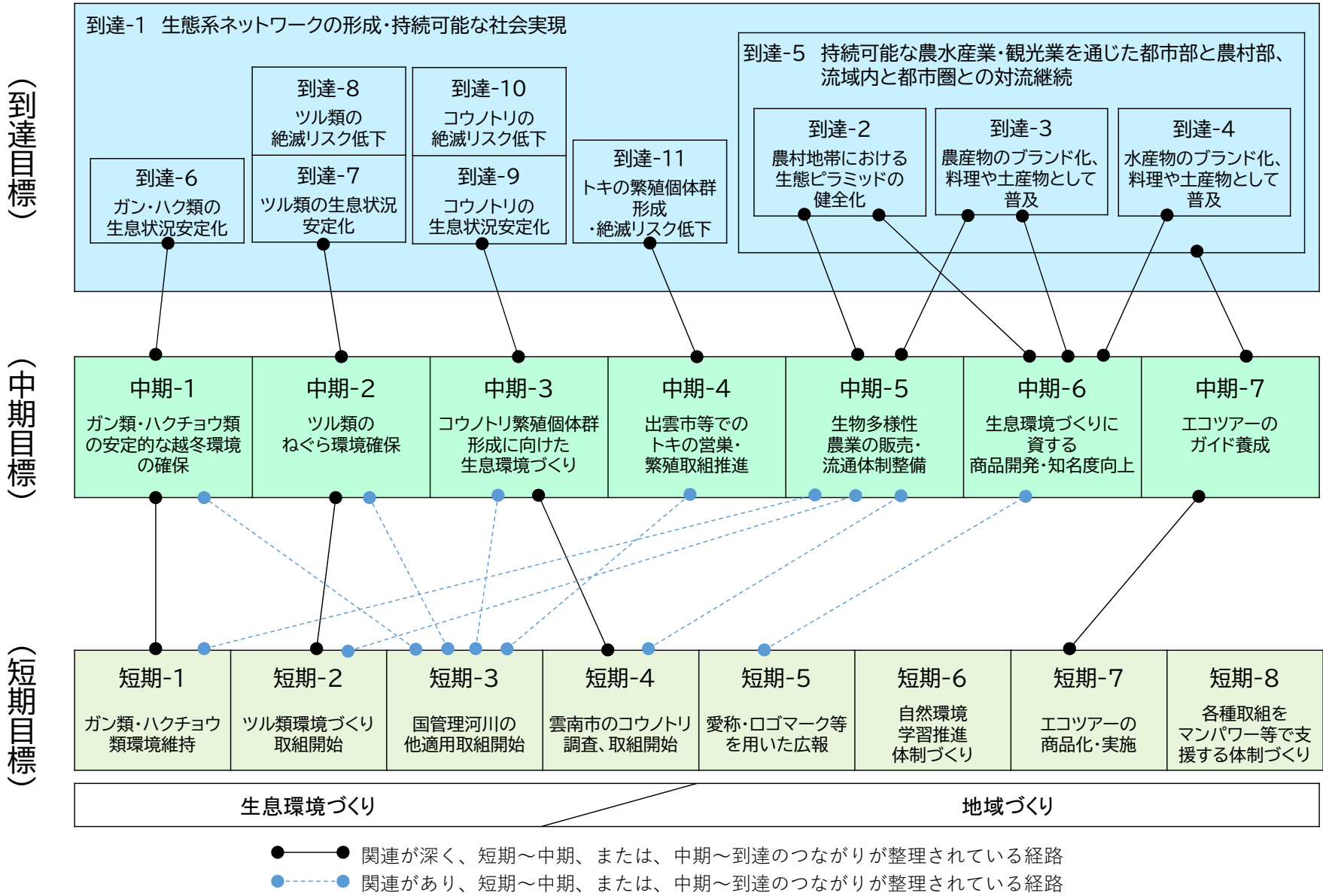
タスクの実施状況	実施主体	～2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
タスク1. サポートを必要とする取組や団体の情報収集・整理								
情報を収集し、整理した	事務局							→
土水路を管理する農業者の意識調査を実施した	出雲・雲南圏域検討協議会		→					
タスク2. サポートが可能な事業者等の情報収集・整理								
圏域事業者への水鳥プロジェクトの周知活動を行った	事務局							→
関係人口獲得のための既存の仕組みに関する情報収集を行った	事務局							→
圏域事業者との情報交換を行った	事務局							→
島根大学の1000時間体験学修の活用を検討中	事務局							→
タスク3. サポートを必要とする取組や団体と、サポート可能な事業者等のマッチングの推進								
「しまっち！」の活用を提案し、マッチングに寄与した	事務局							→
タスク4. 事業者による自主的な活動やサポートの実施								
事業者による自主的な活動やサポートの実施	事業者（企業・団体等）							→

タスクに関連する主な指標値とその変動傾向 基準年：2020年 評価年：2025年	タスク	指標値	基準年	→	評価年	評価
	1. サポートを必要とする取組や団体の情報収集・整理	サポートを必要とする課題を有する団体の把握件数（累積）	3	→	9	前進
	2. サポートが可能な事業者等の情報収集・整理	水鳥プロジェクトの取組にサポート可能な人員、体制を有する事業所等の把握件数（累積）	0	→	6	前進
	3. サポートを必要とする取組や団体と、サポート可能な事業者等のマッチングの推進	サポートを必要とする団体と、サポート可能な団体のマッチング数	0	→	2	前進
		サポートを必要とする団体と、サポート可能な団体の引き合わせ件数（協議実施ベース）	0	→	2	前進

短期目標8 達成状況評価(案)：一部達成

- 〔評価理由〕 ・ 環境管理の担い手が不足している取組主体が、公的機関（ふるさと島根定住財団）の仕組みを活用し、少数ではあるが関係人口の獲得に至っている。また、出雲市内の製造業3社など、域内事業者による大型水鳥をシンボルとした地域づくりや生息環境づくりの取組事例も始まっている。一方で、サポートが必要な取組量に対して、対応可能な事業者の候補はまだ十分に得られていない。
- 〔対応方針〕 ・ 今後も様々なマッチングを可能とするため、サポート可能な事業者等に関する情報収集を進める。

短期目標から中期目標、到達目標への展開の道筋（現状）



中期目標の見直し（案）

斐伊川水系生態系ネットワークの形成に向け、2025年までの取組等を踏まえ、主に以下の①、②の視点から見直し案を作成した。
また、中期目標を わかりやすくあらわす“タイトル”を、③の視点から生息環境づくり、地域づくりの両方で作成した。

- ① これまでの取組の進捗状況等を踏まえた、目標の修正
- ② 短期から到達目標に至るステップストーンとなる、新たな中期目標の設定
- ③ 生物多様性保全にかかる国際公約実現を見据えた“タイトル”の作成

① これまでの取組の進捗状況等を踏まえた、目標の修正

各中期目標について、見直しの要不要について確認を行い、必要なものについて修正案を作成した。

短期目標 1

ハクチョウ類、ガン類の越冬個体数について、少なくとも現状（2015年度時点）を維持できるだけの環境（ねぐら、採食地、休息地）を確保する。

中期目標 1

ハクチョウ類、ガン類の越冬個体群について、ねぐらや採食地の保全・再生に向けた取り組みをさらに進め、外敵の侵入などのかく乱に対しても、圏域全体で越冬個体群を安定して支えられる生息環境を確保する。

見直しは行わない。

短期目標 2

散発的に飛来しているナベヅル、マナヅルの越冬に必要な環境条件に関する調査・分析を行い、生息環境づくりに向けた取り組みを始める。

中期目標 2

毎年数十羽単位以上のツル類が越冬し、周辺水田などで採食している姿が見られるよう、ナベヅル、マナヅルにとって 好適なねぐら環境を流域全体で一か所以上確保する。

以下の視点から見直しを行った。

中期目標 2（修正案）

毎年数十羽単位以上のツル類の越冬地づくりに向け、採食環境づくりに必要な調査を行う。調査により得られた知見をもとに、好適なねぐらと採食地が一体となった生息環境づくりをすすめる。

- ・ 斐伊川河口部周辺は左岸出島地先の自然再生事業が継続中で、数十羽のツル類のねぐらとして機能する環境を有している。好適なねぐら環境の確保は既に進められていると言える。
- ・ まとまった数のツル類の飛来・越冬記録が少なく、生息環境づくりに必要な条件について知見が不足している（特に食物資源、採食環境）。

短期目標4

雲南市におけるコウノトリのペアの生息・営巣条件について調査・分析を行い、課題とされる点については生息環境づくり、地域づくり両面からの改善に向けた取り組みを始める。

中期目標3（現行）

流域全体でコウノトリ繁殖個体群の形成、さらに日本全国、および東アジアにおける個体群間の交流に向けた生息環境づくりを進める。

中期目標3（修正案）

流域全体でのコウノトリ繁殖個体群の形成に向けた生息環境づくりを進める。

以下の視点から見直しを行った。

- ・ 斐伊川水系水鳥プロジェクトや流域関係団体の目標であることに留意する。

短期目標1

ハクチョウ類、ガン類の越冬個体数について、少なくとも現状（2015年度時点）を維持できるだけの環境（ねぐら、採食地、休息地）を確保する。

中期目標4（現行）

佐渡以外の地域においてトキの野生復帰の取り組みが始まっている。流域では出雲市等で、自然条件下での営巣・繁殖に向けた取り組みを進める。

中期目標4（修正案）

出雲市での放鳥を起点とするトキの野生復帰に向け、自然条件下での営巣・繁殖に向けた取り組みを流域で進める。

以下の視点から見直しを行った。

- ・ 全体構想策定当時よりも前倒しで出雲市のトキの野生復帰に向けた取組が進んでいる。
 - 2022年8月 トキの放鳥候補地に 出雲市が選定
 - 2026年2月 同市稗原町にて放鳥が決定

短期目標2

散発的に飛来しているナベヅル、マナヅルの越冬に必要な環境条件に関する調査・分析を行い、生息環境づくりに向けた取り組みを始める。

中期目標5（現行）

生物多様性保全型の農業を自治体各地で進め、圏域自治体やJA等の連携のもと流通・販売体制を整備する。

中期目標5（修正案）

生物多様性保全型の農業を自治体各地で進め、圏域自治体やJA等の連携のもと、農産物のブランド化に向けた検討を進める。

以下の視点から見直しを行った。

- ・ 生物多様性保全型の農業が流域で浸透しているとは言い難いことに留意する。

短期目標4

雲南市におけるコウノトリのペアの生息・営巣条件について調査・分析を行い、課題とされる点については生息環境づくり、地域づくり両面からの改善に向けた取り組みを始める。

中期目標6（現行）

指標大型水鳥類の生息環境づくりに資する農産物や加工品の商品開発を進め、生態系ネットワークの取り組みの知名度を高める。

中期目標6（修正案）

イベントや情報発信等を通じた広報を進め、斐伊川水系生態系ネットワークの取組の知名度を高める。

以下の視点から見直しを行った。

- ・ 知名度向上の手法の方向性を、現状の活動に則して転換する。

短期目標5

斐伊川水系生態系ネットワークの取組について、愛称やロゴマークなどとともに、圏域内外に向けた広報を進める。

短期目標 7

大型水鳥類をシンボルとする自然景観を観光資源としたツアーを商品化し、年に1回以上は実施する。

中期目標 7（現行）

大型水鳥類をシンボルとした自然景観を観光資源としたツアーガイドを養成する体制をつくる。

中期目標 7（修正案）

大型水鳥類をシンボルとした自然景観を活かした観光振興に向け、商品・サービスの開発や磨き上げを進める。

以下の視点から見直しを行った。

- ・ ツアーガイド養成に目標を限定せず、幅広い視点から観光振興を進めていく。

② 短期から到達目標に至るステップストーンとなる、新たな中期目標の設定

他の中期目標と並行して、水鳥プロジェクトの主要施策に位置付けることが望ましいものについて、新たな中期目標案を作成した。

短期目標 6

中海・宍道湖圏域、および、出雲・雲南圏域において、学校・団体等を対象に、大型水鳥類を軸とした自然環境学習を推進する体制をつくる。

中期目標 8（新規案）

自然環境学習のさらなる推進に向け、環境学習の担い手を通じた学習機会の拡大を図るとともに、学校や地域における環境学習の普及に向けたサポートを充実させる。

短期目標 8

各主体の地域づくりや生息環境づくりに向けた取り組みをマンパワーや財政、広報などで支える体制を、流域内外の事業者などを中心に形成する。

中期目標 9（新規案）

生息環境づくりや地域づくりを自主的に支える事業者・団体等の増加を図るとともに、サポートを必要とする側と提供可能な側とのマッチングを進めるなど、取組を支える体制を強化する。

③ 生物多様性保全にかかる国際公約実現を見据えた“タイトル”の作成

ネイチャーポジティブの実現に向けた意思を示すため、生息環境づくりと地域づくりに関するタイトルを作成(更新)した。

生息環境づくり

新規) ネイチャーポジティブを目指し、生息環境づくりの取組を加速化させる

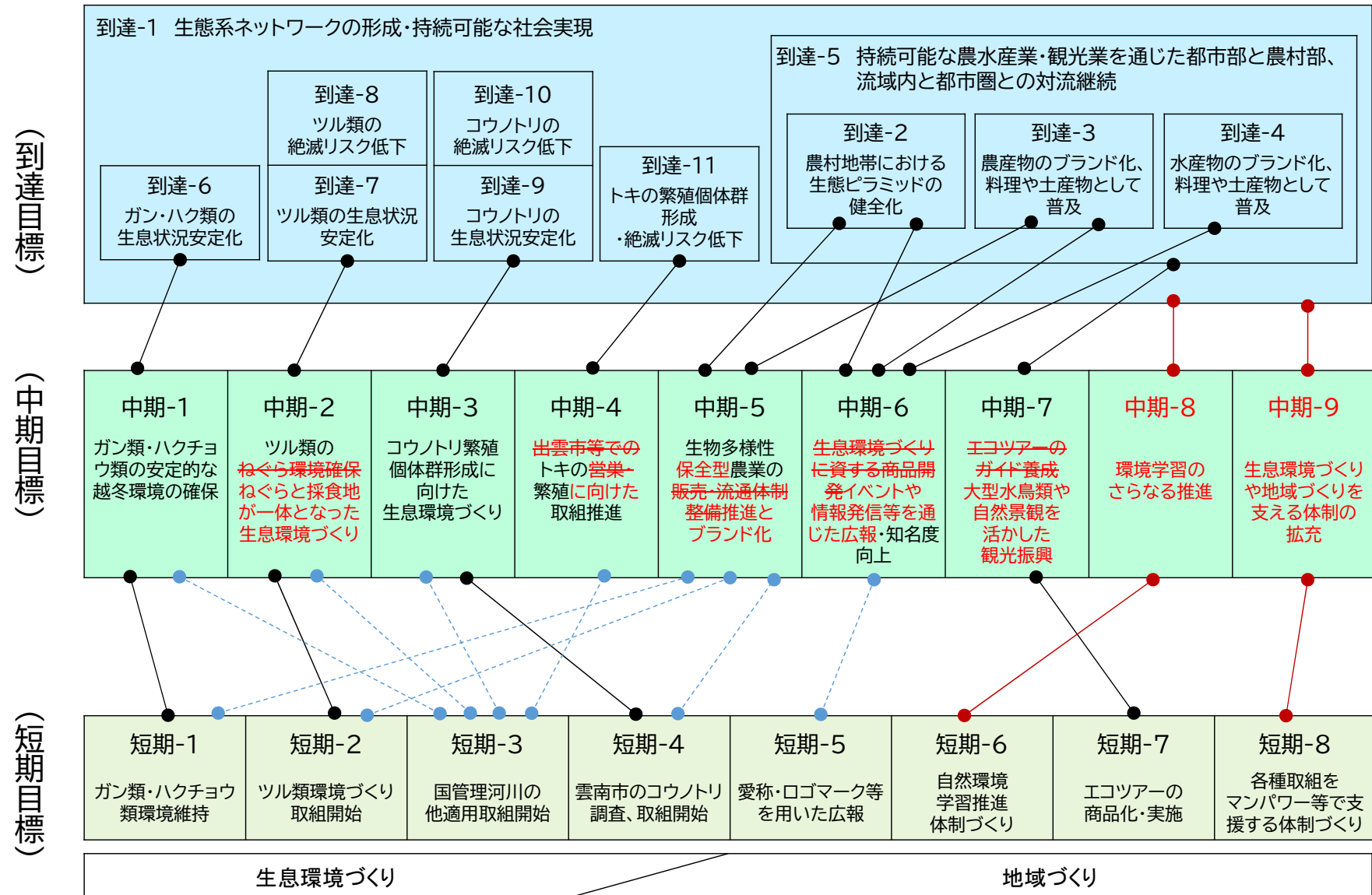
地域づくり

旧) 貴重な自然環境の価値を基礎として、経済を発展させる

↓
新) 貴重な自然環境の価値を基礎として、ネイチャーポジティブ経済・社会へ舵を切る

短期目標から中期目標、到達目標への展開の道筋（修正案）

※赤字：中期目標の修正・追加案



- 関連が深く、短期～中期、または、中期～到達のつながりが整理されている経路
- 関連があり、短期～中期、または、中期～到達のつながりが整理されている経路
- 新たな中期目標設定案

【参考】中期目標とそのタスク案

各中期目標(案)について、現時点で考えられる、達成のため必要な取組事項(タスク)を示す。

生息環境づくり ～ネイチャーポジティブを目指し、生息環境づくりの取組を加速化させる～

中期目標 1

ハクチョウ類、ガン類の越冬個体群について、ねぐらや採食地の保全・再生に向けた取り組みをさらに進め、外敵の侵入などのかく乱に対しても、圏域全体で越冬個体群を安定して支えられる生息環境を確保する。

- (1) ハクチョウ類・ガン類の利用環境調査
- (2) 現在ねぐら等として利用されている水辺環境の保全、再生
- (3) かく乱を受けた時の避難場所としても機能する、新たなねぐら環境の確保
- (4) 現在採食地として利用されている場所を中心とした、水田環境等の保全・再生

中期目標 2 (修正案)

毎年数十羽単位以上のツル類の越冬地づくりに向け、採食環境づくりに向け必要な調査を行う。調査により得られた知見をもとに、好適なねぐらと採食地が一体となった生息環境づくりをすすめる。

- (1) ツル類の利用環境調査（特に食物資源、採食環境）
- (2) 河川・湖沼における、数十羽のツル類が利用可能なねぐら環境の保全
- (3) (1)の結果をもとに、(2)のねぐら環境と一体となった採食環境の保全・再生

中期目標 3 (修正案)

流域全体でのコウノトリ繁殖個体群の形成に向けた生息環境づくりを進める。

- (1) コウノトリの利用環境調査、圏域外に生息するコウノトリの生息状況の情報収集
- (2) 流域全体における、コウノトリの定着に向けた民間団体や行政等との連携による地域住民への周知・巣塔の設置
- (3) 流域のコウノトリが多く見られる場所を基点とする、採食地として機能する水田環境、水辺環境の保全・再生

中期目標 4 (修正案)

出雲市での放鳥を起点とするトキの野生復帰に向け、自然条件下での営巣・繁殖に向けた取り組みを流域で進める。

- (1) 圏域外に生息するトキの生息に必要な環境条件（営巣地、ねぐら、採食地）に関する情報収集
- (2) トキの食物資源調査・データ整理
- (3) トキの営巣地やねぐらとなる森林の保全・再生
- (4) トキの採食地として機能する水田環境、水辺環境の保全・再生

地域づくり ～貴重な自然環境の価値を基礎として、ネイチャーポジティブ経済・社会へ舵を切る～

中期目標 5（修正案）

生物多様性保全型の農業を自治体各地で進め、圏域自治体やJA等の連携のもと、農産物のブランド化に向けた検討を進める。

- (1) 生物多様性保全型の水田農業推進に向けた情報発信
- (2) 生物多様性保全型農法による農産物のブランド化に向けた検討

中期目標 6（修正案）

イベントや情報発信等を通じた広報を進め、斐伊川水系生態系ネットワークの取組の知名度を高める。

- (1) イベント等の活用による周知活動の実施
- (2) 広報ツールの作成・活用
- (3) SNSによる情報発信
- (4) 生態系ネットワークの取組に対する認知度の把握

中期目標 7（修正案）

大型水鳥類をシンボルとした自然景観を活かした観光振興に向け、商品・サービスの開発や磨き上げを進める。

- (1) ツアーガイドの養成
- (2) ツアーコンテンツの磨き上げ
- (3) 集客手段の検討
- (4) 関連商品の開発

中期目標 8（新規案）

自然環境学習のさらなる推進に向け、環境学習の担い手を通じた学習機会の拡大を図るとともに、学校や地域における環境学習の普及に向けたサポートを充実させる。

- (1) 環境学習プログラム活用に向けた教育機関への働きかけ方法の改善
- (2) 環境学習の担い手が使いやすいツールの開発・提供方法等の検討
- (3) 就学前から中高、大学、市民まで、幅広い層へ向けた展開

中期目標 9（新規案）

生息環境づくりや地域づくりを自主的に支える事業者・団体等の増加を図るとともに、サポートを必要とする側と提供可能な側とのマッチングを進めるなど、取組を支える体制を強化する。

- (1) サポートを必要とする取組や事業者・団体等の情報収集
- (2) サポート提供可能な事業者・団体等の情報収集
- (3) サポートを実施する事業者・団体等の増加
- (4) サポートを必要とする取組や団体等と、サポート可能な事業者・団体等のマッチングの推進